

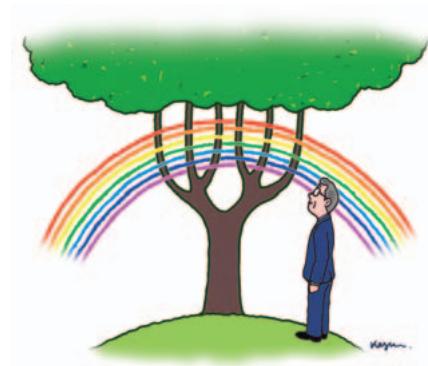


平田 弘

HIRATA Hiroshi

グンゼ
会長

創業と守成 —何を守り、何を変えるか—



唐の太宗と群臣の問答をまとめた『貞觀政要』に「創業と守成では、どちらが難しいか」と太宗が問いかける場面があります。“創業”、すなわち天下を平定すること、そしてその状態を維持する“守成”。房玄齡が「敵を倒し従わせる創業の方が難しい」と答えたのに対し、魏徵は「創業は、衰え乱れた世で、天の時を得て登場した新しい王を、国民は喜んで迎えるので難しくはない。その後、天下をとった者はおごり高ぶり当初の志から離れ、国が衰退していくので、守成の方が難しい」と答えます。太宗は「房玄齡は九死に一生を得て天下を平定したので創業が難しいと考え、魏徵は天下安定に努力し、当初の高い志を忘れるとは國は滅びると考える。創業の難が去った今、これからは皆とともに守成の難を克服していきたい」と語ったといいます。

さて、グンゼは今年、創業118年を迎えました。創業と守成、いずれも難しいと感じますが、企業環境が大きな転換期を迎えており、この長い会社の歴史をふまえ、社員全員が危機感を共有し、力を合わせて守成の困難を乗り越えていかなければならぬと考えています。

守成には何が必要なのでしょうか。一つは、創業の精神や企業理念を徹底すること。CSRという言葉もまだない時代に、グンゼは「社会に貢献する」ということ自体を目的として創業しました。当時の京都の何鹿郡(現・綾部市)の地場産業である養蚕を生かし地域振興をはかるということを「郡是」(郡の方針)として掲げ、地域と一緒に成長してきました。他地域そして海外へと事業を拡大していくなかでも、「どこの地域で会社を運営しようと、その地域の人々や関係者と共に存共栄する」という創業者の精神は、社是として、これからも構成員に

しっかりと受け継いでいく必要があります。

もう一つは、時代の変化や消費者のニーズに応じて、新たな技術、機能、商品・サービスを創出し続けることです。弊社は生糸の生産からスタートしましたが、やがてナイロンが発明され、生糸事業が衰退していくなか、アパレル事業への転換をはかりました。さらには、商品パッケージを内製するために立ち上げたプラスチックフィルム事業や、それを高機能化したカラー複写機用転写ベルトやタッチパネル、繊維の加工技術と高分子技術を融合させたメディカル材料などを機能ソリューション事業として強化中です。また、保有不動産を活用したショッピングセンターなどのライフクリエイト事業など、さまざまな商品・サービスを開拓しています。

特に、メディカル材料については、関西でライフサイエンスが地域発展の起爆剤として期待されるなか、海外企業との連携や大学の研究室との共同研究を通じて、生体吸収性材料で、手術用の縫合補強材や再生医療用足場材料の開発に挑戦しています。

織物を織るときには、最初に経糸を固定し、そこに緯糸を入れていきます。経糸は一度付けると、変えることはできません。一方の緯糸を変えることで、色やデザインに変化をつけることができます。創業の精神や企業理念はいわば“経糸”であり、強固なものでなければなりません。そして、時代やニーズの変化に応じた素材、技術、機能を表現するのが“緯糸”一。その2つの糸が織り上げられることで、消費者に評価していただける商品が完成します。それが企業価値の向上につながるものと考えています。

(談)